September 2023

千里地理通信

関西大学地理学・地域環境学教室会報　第 89 号
末尾至行先生追悼特別号
Newsletter of Department of Geography and Regional Environment, Kansai University

Contents

Page 1-8 ･････････
末尾至行先生追悼特集

Page 9 ･････････
同窓会通信
卒業生だより
ベトナム経済発展の現実―ビンズオン省・バリア＝ヴンタウ省の生活インフラを訪れて―
桐山哲久

Page 10 ････････
研究ノート
モンゴル・ウランバートルにおける急激な都市化とゲル地区への水供給の問題点
ガルサンドルジ
プルブドルジ

Page 12 ････････
一泊バス巡検報告
淡路島の自然と人文
山本奈穂

Page 13 ････････
秋の日帰り巡検の案内

Page 14 ････････
第５回千里地理学会卒業論文及び修士論文一覧

Page 15 ････････
同窓会事務局ニュース
教室だより

Page16 ････････
随想
藪内先生への想いとともに歩んだ我が地理学人生
田和正孝

Page 12-15 ･････
新専修生からのひとこと

教室の創設者，末尾至行先生が 2023 年 6 月 16 日（金）13 時 31 分，老衰のため，西宮市の老人ホームで 95 歳の生涯を閉じられました。先生は 1927（昭和 2）年 9 月 23 日神戸市で生を享け，県立第一神戸中学校（現在の神戸高校），第三高等学校等を経て，京都大学文学部で地理学を専攻されました。1959 年，1964 年には京大のイラン・アフガニスタン・パキスタン調査隊に参加され心血を注いで地理班をまとめられました。京都大学文学部助手から奈良女子大学文学部講師・助教授を経て，1966（昭和 41）年 4 月に関西大学文学部助教授に着任，以来 32 年にわたって，研究と教育に邁進されました。この間，関西大学にあっては，文学研究科長，東西学術研究所長等を歴任され，学外では，人文地理学会会長 2 期 4 年，日本学術会議会員 1 期 3 年を務められました。ご退職時に，『千里地理成長記：地理学教室 30 年史』（1998）を教室で刊行しました。今回，関大地理同窓会と相談しまして，先生にゆかりの関大地理学教室の元教員，卒業生の方々に呼びかけて，本号を追悼特別号として増頁で編集しました。

「実証の精神」と水車愛

橋本　征治

まず，95 歳余の天寿を全うされたこと，心よりお悔やみ申し上げるとともに敬意を表したいと思います。晩年は施設での長い要支援生活でございましたが，姪御の末尾祥子さんの心のこもった手厚い支えを受けながら，しっかりと乗り越えられたこと，何よりであったと思います。

先生は早くから研究と教育の職に就かれ，昭和 41（1966）年からは関西大学助教授に就任して地理学教室を創設され，爾来 30 有余年にわたって地理学の研究と教育に専念し，多くの有意な人材を育て，社会に送り出してこられました。先生は，「実証の精神」と「自由で闊達な教育・研究」を尊重し，実践されてきました。その学風は，今も関西大学地理学教室に引き継がれていると思います。私も，その学恩を受けて，自由にのびのびと研究・教育に当たらせて頂きました。また，研究調査などでご一緒させていただいたことも多く，その際には緻密さと豪胆さを併せ持った先生の研究姿勢から学ばせていただいたことも多々あり，有り難かったと思っています。おそらく，教え子の皆さんも，先生から色々なことを学び，有り難かったこと，そしてときには厳しいこともあったろうかと思いますが，それらはきっと皆さんの血肉となって，活かされていることと思います。

1998 年 8 月関大のレストランにて
（写真は矢嶋巌氏提供）

人文地理学会誌：『人文地理』にも先生の紙碑を執筆させていただいた。先生のたゆまぬ研究活動と膨大な研究成果を辿り，改めて先生の「実証の精神」のすごさと，揺るがぬ“水車愛”をしっかりと受け止めさせて頂いた。

末尾先生，ありがとうございました。どうぞ，どうぞ，ゆっくりとお休みください。ご冥福を心から祈っております。

（関西大学名誉教授，2009 年 3 月退職）

時計は止まったまま

木庭　元晴

末尾先生が大往生された。新型コロナが無ければ百歳突破の可能性もあったと思う。末尾先生の恩師の古地図学の織田武雄先生（初代人文地理学会会長）も九十九歳と長寿だった。織田先生の指示で奈良女子大から関大に移って地理学教室を作られた。末尾先生は，院生時代の助手であった漁業地理学の河野通博先生（岡山大学名誉教授），世界漁業文化圏を唱えた藪内芳彦先生（大阪市立大学），土地分類の山崎寿雄先生（経済企画庁，山口大学），助手として入られた橋本征治先生の陣容を，まずは整えられた。文化地理学の大槻恵美さんは大阪市大から藪内先生を慕って関大院に進学され，経済地理学の中島茂さんは岡山大学から河野通博先生を慕って関大院に進学された。ぼくが地理学教室の自然地理学担当教員となった1984年当時，この卒業生お二人は橋本先生の研究室に住んでおられて，はじめてお邪魔した時の怖いという記憶が鮮烈であったし，ぼくと同年代ながら，東京都心の名門大学同様の大学院の重厚さを強く感じたものであった。山崎先生は1979年に赴任され，1982年春には亡くなっている。山崎先生の大学院での自然地理の指導を受けた院生は遠川明彦さんと米本和弘さんだけでは無いが，ぼくが赴任した際はこの二人が在学されていた。

1980年1月から三池炭鉱の町大牟田にあった国立有明高専の教員でした。当時は新聞社から賞を得たり日本第四紀学会のシンポジウムテーマで発表したり特集号に掲載されたり，Elsevier の Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology に博士論文の一部が掲載されたりと，当時の本人はなんとも感じなかったが，研究者としていい時期であったと今更ながら思う。当時ぼくが出していた科研の第2段階目の審査員が河野先生だったということ，かなり後になって河野先生からお聞きした。

河野先生にぼくをご紹介頂いたのは岡山大学の高橋達郎先生でした。河野先生からお手紙があってすぐに河野先生にお電話して，その翌々日ぐらいだったか，熊本空港から大阪空港まで飛んで千里中央までバスで行き，タクシーで関大へ。河野先生は外に待っておられたかも知れない。今はもう消えてしまったが旧大学院棟の2階だったかに東西研所長室があり，そこで末尾先生が待っておられた。特に話はなくてお茶のみ話をして長くても二十分ほどで終わったと思う。河野先生は二部に授業があると出られた。その後，末尾先生から木庭さんは理学博士，だね，という確認があった。ぼくは地理学博士課程の要員として喚ばれたのである。

その後，大阪駅のアクティの11階かのイタリアンでスパゲッティをご馳走になった。ワインは止めとこうというコメントがあったような。その後，ご馳走になったのは，末尾先生のトルコでの水車研究のサポートをされたマテルさんと一緒に新阪急ホテル地下の高級天ぷら屋さん，そして末尾先生ご退職後には，高槻のご夫婦お気に入りのレストランで末尾先生と奥様とで，橋本先生御夫妻，木庭夫婦をご招待頂いたことだろうと思う。

末尾先生には今思えば，かなり可愛がって貰ったようだが，末尾先生にお会いするときはいつも緊張していたので，楽しむという形にはならない。日本学術会議ではご一緒して専門委員に推薦頂いたこともあった。地下鉄サリン事件の朝，ぼくは霞ヶ関にいた。電車1～2本の違いではないだろうか。とにかく，入試問題作成ではかなりの時間を，橋本先生とともに，三人で過ごした。疑問を解くべく一緒に辞書などを参照したり図書館に行ったりした記憶は今も新しい。ぼくの入試作成能力については機会あれば，末尾先生自ら他の先生に褒めて頂いたりもした。思えば三十歳代で文学研究科小委員の数人の一人になっていたのも末尾先生のお力である。

ご退職の後も，大阪ガスの高級ホームにご招待頂いたりした。最愛で美人の奥様ががんで「早世」されて後，そのホームそばを自転車で帰路，偶然，姪御さんの祥子さんと散歩されている時にお会いした。その時の末尾先生の笑顔が忘れられない。ぼくは学者として尊敬し，人間としてぼくは末尾先生が大好きなのです。

2023年盛夏

（関西大学名誉教授，2020年3月退職）

「末尾先生有難うございました」

伊東　理

末尾先生に初めてお会いしたのは，1972年の京大文学部の授業でした。揚水水車に関する講義が印象的で，技術革新が地域を変革することを力説された先生のお姿を鮮明に覚えています。それは私が技術革新に伴う地域変化の問題に関心を持つ遠因となりました。

次に先生にお会いしたのは，大学院D1生の時で，人文地理学会編集理事末尾先生の元で，当時京大文学部地理学教室で開催されていた編集委員会の雑務（委員会資料作成，印刷所との原稿・校正のやり取りなど）を担当致した時でした。先生は雑用係の私にまでお気遣い頂き，またご馳走にもなりました。就職先が決定し，先生にその旨申し上げたところ，「おめでとう。でも，君が

編集雑務でなくなるのは，大変痛い」と言って下さいました。懐かしく，嬉しい想い出となっています。

そしてご縁あって，関大地理に採用された折には，私が入る研究室の本棚に，先生から私に下さるクリスタラーの中心地論の英語版などの貴重な御本がさりげなく置かれていました。感激致した次第です。

先生から種々のお話を聞かせ頂こうと思って，先生もご出席される4月初旬の史学地理新旧教員歓送別会に臨みました。先生からは，「僕はもう辞めた人間。伊東君の好きなようにやればいい。」，とのあっけない一言だけのアドバイスでした。思い返せば，この一言のお陰で，自分なりに関大地理で精一杯頑張ればよいのだ，と割り切ることができました。

以降，末尾先生は大学に来られず，お会いすることもございませんでした。御葬儀に臨席できなかったことをはじめとして，残念かつ申し訳なかったとの思いもございますが，何よりも末尾先生には長きにわたりお世話になりましたこと，深謝申し上げます。誠に有難うございました。謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

（関西大学名誉教授，2019年3月退職）

強靱な信念を裡に秘めて

野間　晴雄

末尾先生を同僚として直接知る現職教員は私を含めていません。私が卒業生から聞くのは，先生への畏怖とダンディな身のこなし，事務能力の高さへの驚嘆です。大阪のバンカラでならした関西大学では珍しく，ミナト神戸旧市街地のハイカラさを堅持されていた先生でした。京大の地理で同学年生として切磋琢磨された故・浮田典良先生とは，書く文字のわかりやすさ（＝印刷所フレンドリー），主題図表現の的確さは双璧だったと思います。

膨大浩瀚な書籍・資料を博捜しながら，外来理論を振りかざすことなく，むしろそれを徹底的に拒絶して，事実とモノ，場所，それをささえる技術にこだわった正統派人文地理学の姿でした。この信念は，70歳でご退職後に，卒業生の水田憲志・吉田雄介氏の手を借りて，『中近東の水車・風車』，『日本の水車：その栄枯盛衰の記』の2冊の大著を関西大学東西学術研究所叢書としてまとめられたエネルギーの源泉です。

お子様がおられなかったこともあり，奥様とは海外調査や在外研究にも同行されるなど，仲睦まじかったと仄聞しています。奥様のご逝去後，外野で支えたのが，関西大学で先生の薫陶をうけた元大学院生との交流でした。

東西研は先生にとってオアシスのような存在だったと思います。その研究員が特権的・固定的と批判があった組織を，所長として公募の期限付研究班組織に改革されました。中国研究の勢力が強い所内にあって，東西の交流，アジアとヨーロッパの両方を見据える間（あわい）として中近東とその東西の広がりを強烈に意識された先生の視点は，そのあとを橋本征治先生の研究班が継ぎました。それを今年まで形を変えてですが私が班を組織できたのは誇りです。泥臭い湿地や熱帯にこだわる私からすれば，末尾先生はクールで合理的な「乾燥地の美学」を貫かれた哲人です。

（関西大学特別契約教授）

私と末尾至行先生

大西　清見

2023年6月18日，山元憲司さんとニューFHGネクスト（旧野外歴史地理研究会）の巡検（亀岡・園部の城下町歩きと保津峡・嵐山）に参加したときのことでした。亀岡の城下町の散策中に元京都大学の山田誠先生から「昨夜，末尾先生が老衰のため逝去されました」と連絡をいただきました。末尾先生はかなり高齢で，この数年は西宮の老人ホームで静かに過ごされていることはお聞きしていました。突然の訃報を奇しくも地理巡検の旅の途中で聞き，末尾先生との大学院生活のことを思い出しながら城下町を歩きました。

2019年12月，私の妻と二人で西宮の老人ホームを訪ねました。お歳は93歳とお聞きし，認知症は少しありましたが，二人が仲人をしていただいた頃のことや最近の私の教員生活ことなど楽しくお話をすることができました。最後の老人ホームの面会所で旧制第三高等学校の寮歌を歌っていただき，今でも京都大学での青春が末尾先生の心の中にあるのだと思いました。心に残る末尾先生との半日でした。

末尾先生との最初の出会いは，1971年10月の大学院入試，面接の日でした。末尾先生は私への質問のあと，「大学院入学後の研究は，卒論を発展させて日本の漁村の歴史地理を調べていけば良い」と指示されました。その後，漁業史の詳しい立命館大学の島田正彦先生を紹介していただき，私の漁業の歴史地理への大学院生活が始まったのでした。

大学院修士課程では2年間，先生とマンツーマンで歴史地理学の講義，修士論文を指導していただきました。修士論文のテーマは「明治末～大正期における丹後沿海におけるブリ網漁業」，末尾先生も以前に若狭漁村を調査されておられたので若狭湾の地域性や資料の収集など

たくさんの助言をいただいたことも地理学研究への大きな力となりました。1974 年，大阪市の高等学校に採用され，その後の教員生活や海外の情報収集などの旅などの報告も心から喜んでくださいました。

2023 年 3 月，奇しくも末尾先生にお会いしてからちょうど半世紀になりました。末尾先生，50 年間ありがとうございました。安らかにお眠りください。

（1972 年 3 月卒業，1974 年 3 月院 M 修了）

末尾先生を偲んで

中島　茂

私が末尾先生に初めてお目にかかったのは 1977 年 10 月でしたか，関西大学大学院文学研究科修士課程地理学専攻の入学試験で，面接を受けた際のことでした。その当時は現在の英語教育連環センターが入っている岩崎記念館が大学院棟で，その講義室の一室が面接会場になっていて，確か，部屋の廊下側から末尾至行，織田武雄，藪内芳彦，橋本征治の 4 先生が座っておられました。私は岡山大学の学部と専攻科の出身で，その専攻科に提出した修了論文をお見せしたところ，末尾先生は私の作成した大正期大阪府の人口や工業の分布図をじっと眺めておられました（きっと下手くそだなと思われたでしょうが）。

爾来，末尾先生には修士課程と当時は日本史学専攻歴史地理学専修の形でおかれていた博士後期課程で合わせて 6 年間指導していただきました。その後，先生の海外フィールドであったトルコやハンガリー，ブルガリアなどの海外学術調査へ参加させていただき，貴重な経験を積ませていただきました。さらに先生が関大を定年退職される 1998 年 3 月に向けて，その 2 ～ 3 年前でしたか，博士学位論文の提出という大きな課題を与えられました。ちょうど阪神淡路大震災の頃のことでした。

関大ご退職後の先生には，私の職場が岡山や愛知に変わる中で，めったにお目にかかれなくなり，年賀状のやりとり程度にとどまっておりました。それもここ数年は先生の姪御さんの代筆でしたが，ご返事をいただいておりました。95 歳は十分長寿とはいえ，もっと長生きしていただきたかったというのが正直な気持ちです。合掌。

（1981 年 3 月院 M 修了，1984 年 3 月院 D 単位取得退学，1998 年 3 月論文博士）

末尾先生の思い出

石川　雄一

私が関西大学に入学したのは，1977 年であった。入学時から地理の道を志していたので，1 年生秋の地理学教室の巡検にも参加した。巡検には，先生も来られていたが，お話しすることもなかったと思う。3 年生になって必修の「外書購読」を受けたのが，末尾先生との教室での出会いの始まりである。そこからコロナ禍直前まで，長い交流が続くとは不思議なご縁である。

個人的な付き合いは大学院入学後であったが，そのほとんどは先生の水車研究にまつわるものであった。その始まりとして修士 2 年時に，お手伝いとして栃木県宇都宮市での数泊の調査に同行した。古文書（近代の水車届け出文書）の蒐集目的での調査であった。冬の北関東内陸特有の異常な低温と暖房のない県庁倉庫での作業のため，調査半ばで高熱を出し，ホテルで半日寝込んでご迷惑をかけたことを，今でも鮮明に覚えている。ゆっくり静養しなさいと言われつつも，申し訳なく昼から復帰して仕事をしたが，まだ熱が下がらず体調不良だったことは先生には内緒にしていた。この調査への同行は，私の専門である都市地理学の研究手法とは異なるものであったが，近代の資料の収集法など，のちの戦前期の都市圏を扱った私の研究に役立ったことも多かった。

90 年代半ばの 6 年間は金沢にいたが，先生は石川県庁での資料蒐集と現地調査のために 2 度，またその後 20 年間居住していた佐世保にも，佐世保から松浦にかけての調査と島原半島での調査のために 2 度訪ねられ，案内役として同行した。

金沢在住の時には，その後すぐ引っ越すことになった私の新居にも訪問していただいた。また島原半島調査の際には，休憩で立ち寄った雲仙高原ホテルに私が手帳を忘れたため，帰り道，遠回りして付き合っていただいたことなど，忘れることのない思い出である。今，私が関西大学を巣立ったときの先生のご年齢に達したが，先生を超えることができていないことには，弟子として申し訳なさを感じる次第である。

（1981 年 3 月卒業，1984 年 3 月院 M 修了，1987 年 3 月院 D 単位取得退学，2005 年 3 月論文博士）

本通信の印刷費に関しましては，本専修の卒業生で，ノエビアホールディングス社長の大倉俊様から専修への寄付金を使わせていただきました。厚く御礼申し上げます。

地理が大好きです　―末尾先生へのお礼の気持ち―

中村　雅俊

末尾先生がお亡くなりになったことを，知らせていただき，お通夜の席に参列させていただきました。末尾先生にゆかりの方，ご家族の方や地理学関係のみなさま，が集まっておられました。その席では，素敵な笑顔の先生のお写真や，自筆の論文なども見せていただきました。

わたくしは，学部の4回生のゼミを末尾先生にご担当いただきました。先生はその前年は，西南アジア方面で研究活動をされていましたので，スライドや持ち帰られた各民族特有の帽子などの衣装を使って，ゼミのなかでお話を聞かせてくださいました。

末尾先生は，関西大学で地理学の専任として，最初に赴任されたと聞いています。その後，織田武雄先生はじめ多くの立派な先生方を関西大学に招かれたのも，末尾先生のご尽力であったことと思います。

そして，わたくしが在籍しておりました時は，史学科の四専修のひとつとしての地理学専修でありましたが，史学・地理学科に改組されたことも末尾先生のお働きによったことと思えます。

今日の，関西大学における地理学関係コースの充実は，ひとえに末尾先生と，橋本征治先生の時代に基礎がかためられたものと存じます。

わたくしが，機会を与えられ社会人として（教職につきながら）大学院に進学を許された春に，末尾先生は関西大学を離れられました。研究棟の個研にご挨拶に行きました折，まだ書架にありましたご高著の何冊かをいただくことが出来ました。

そのような事情で，大学院では末尾先生のご指導をいただくことはありませんでしたが，夏の一日，ビア・ガーデンでジョッキを手にして，先生から海外研究のお話を聞くなどできましたことは，先生の温かなお人柄であり，本当に有難いことでした。

わたくしは，学部4年間地理を学び，37年間，高校の地理教員として勤めることができました。関西大学地理学関係コースと末尾先生をはじめ諸先生方からの教えを，人生最大の喜びであると，末尾先生とのお別れに際して強く思っています。末尾先生，本当にありがとうございました。

（1974年3月卒業，2000年3月院M修了，2003年3月院D修了）

末尾先生への感謝

遠川　明彦

6月16日夜，末尾先生が亡くなられたとの連絡をいただきました。すぐさま頭をよぎったのは，なぜお会いする機会を設けなかったのかという後悔でした。ずいぶん前から，後輩に先生はこの場所におられるので，一度訪ねてみてくださいという言葉を聞いていたにもかかわらずです。

正直なところ，大学，大学院を通して，先生の授業を受けたことがほとんどなく，当時の地理学教室の先生方のなかでは，何か疎遠だったと記憶しています。ただ授業以外の場面では，すでに大学2回生の頃から，地理学教室地理学研究会の研究例会，巡検などに参加させていただくことがあり，末尾先生の人となりを先輩方からお聞きしていました。それでも近づきがたい存在のように感じていました。それが大学院に進学すると，少人数ということもありお話しする機会も増えてきました。私と同じ分野の研究をしていた後輩が修士課程（現博士課程前期課程）に入学するタイミングで，当時大阪府立大学におられた先生にお声をかけていただき，じかに講義を受ける機会を設けていただきました。末尾先生が大学院生のためにと，お骨折りいただいたと後程耳にしました。びっくりすると同時に，学生のためならと，積極的に動いてくださったことに感謝の気持ちでいっぱいでした。そんな先生のご配慮にもかかわらず，自身の体たらくから先生への恩返しがまったくできていません。痛恨です。

（1981年3月卒業，1983年3月院M修了，1990年3月院D単位取得退学）

末尾至行先生，たいへんお世話になりました。

貝柄　徹

西宮のホームにご入居中は，木庭元晴先生，水田憲志氏と一度，お訪ねすることができただけであったが，最後に通夜式，告別式でお別れを言うことができた。お声，口調，かつてお話した断片などが蘇ってきた。

遡ること1982年，3年次の文献講読は末尾先生であった。現在のシラバスにあたる講義概要には「国内外の文献」とあるにもかかわらず，日本語文献は全く扱わず，ジャン・ゴッドマンの「メガロポリス」には，苦労した記憶が残っている。

博士後期課程で関大に戻ってきた1987年冬（12月14日～31日），関西大学100周年記念事業のインド祇園精舎遺跡の調査に，地理班として先生と二人出かける機会

に恵まれた。国内線が霧により欠航となり，悪路のヒンドスタン平原をデリーから700kmタクシーで走ることになった。無事に少々過酷な調査を終え，帰途，バンコクのホテルにて，自分たちにご褒美とばかり，すき焼きを食べることになった。緊張しながら作ろうとすると，「私がやろう」と自ら菜箸で丁寧かつきれいに作り始められた。驚いて，こういうこともなさるんでしょうかと聞くと，ニヤッと微笑んで「おせち料理のごまめは私の担当」とおっしゃっておられた。

あのときの先生の年齢は…55～60歳だったと今回再認識した。パリッとしたスーツ，丁寧だが学問に対する厳しく真摯な姿勢は，当時，学生ながらも畏怖の念を感じざるを得なかった。それでいて，少しおちゃめな学者の一面を院生時代は見ることができた。

すでにあの頃の先生の年齢を超えた現在，到底，真似をすることはできないが，真摯に生きてゆこうと思う。

先生からの電話は，一呼吸おいて，低音で「末尾です」。今でも耳に残っている。

（1984年3月卒業，1993年3月院D修了）

末尾先生のレンズを通して

夛田　祐子

末尾先生との会話時間は父よりもはるかに長い。博士後期課程では，教職についていた私のために，各先生が土曜午後に講義時間を作ってくださった。末尾先生はいっそのことと，大学二部の授業も土曜日に担当されたので，天六学舎に向かう道中での軽食によくお供させていただいた。これが冒頭の一文の根拠である。私はお話を伺うことに終始したが，その内容も対象となる時代も多岐に渡った。物資が潤沢でない時代の海外調査，京大に事務局があった頃の人文地理学会など，まさに地理学アーカイブだった。海外調査のためにカメラメーカーが過酷な自然環境（乾燥地）で，自社のカメラが使用に耐えるかどうかを調べるために，無償で貸し出ししてくれた話などは，海外調査の歴史といってよいと思う。その中でも記憶に残るのは，先生の恩師の織田先生や，先生の同期の矢守先生や浮田先生という人文地理学会を代表する先生の昔話であった。同期であっても一歳でもちがえば，「○○君」とご本人を前にした時でもそのように呼ばれることは不思議だった。

トルコや東欧の海外調査に連れて行っていただいた時も，先生の好奇心と行動力にはタジタジだった。斜面の上に立つ崩れかけた風車を調べるために躊躇なく向かう後姿，お昼のアルコールの影響も感じさせずに移動中も調査内容のメモを整理する背中，現地の方に水車の来歴や処理能力について次々とインタビューする姿勢は，今は懐かしく思い出すが，当時は畏怖の念しか抱かなかった。まだ山田マンションにいらした頃，私の運転で姪の祥子さまと三人で神戸の調査にうかがったのが，元気な先生との最後の思い出になってしまった。きっと再度訪問すべき場所があったはずだが，それを言い出せずにいたのが心残りである。自分では経験できないほどの地理学の世界を見せていただけたことに感謝しかない。ちょっと先生のフィルターがかかったレンズを通して。

（1985年3月卒業，1989年3月院M修了，1992年3月院D単位取得退学）

突然の電話から

小野田　一幸

末尾先生との想い出は少なくない。振り返ってみれば，人生の節目節目には，必ず先生があらわれる。修士論文の提出を戸惑っていた時には指導教官の先生からそれを勧められ，博士課程の願書を私の手元に送るように図らっていただいたのも先生であった（記憶が正しければ，畏友の三木理史さんが郵送してくれた。当時，三木さんはD1）。一度は固辞されたが，いつものように照れながら，仲人の労をとっていただいたのも先生であった（写真）。

さらには，1997年年初の先生からの電話は，その後の人生を大きく左右するものであった。突然の電話は，いつものごとく低音の「末尾です」から始まり，「詳しいことは三好くんに聞いて」で終わった。全てが決まっているかのような口ぶりで，滔々と語っておられたこと

末尾先生と敏子夫人
（1991年6月8日，大阪コクサイホテル）

を今も鮮明に記憶している。伊丹市教育委員会から神戸市立博物館へのトラバーユである。あとから聞いたことだが，先生は事前に文学部事務室で学芸員の資格を取得しているかどうかについても確認をしていただいたらしい。その後，先生が生まれ育った神戸の地で26年にわたり働いている。残すところあとわずかではあるが，全うできれば，その恩に報いることになろう。さて，学恩はいつお返ししたらよいのか。

（1990年3月院M修了，1994年3月院D単位取得退学）

末尾至行先生，ありがとうございました。

赤岩　健治

卒論指導教授末尾至行先生の訃報に接し教室での思い出が頭をよぎります。1985年地理実習（下期）1986年卒業演習，卒業論文でお世話になりました。地理実習では海の京都丹後半島伊根（船のガレージ舟屋で有名）での現地調査のご指導をいただきました。卒業演習では小生が地元川西市を走る能勢電鉄をテーマに卒論「通勤交通手段としての能勢電鉄」を書くべく厳しくも温かいご指導をいただきました。口述試問では「視野を広く持て！」と叱咤激励を最後の最後にいただきました。

1997年10月教養クラスの同窓会で大学を訪れた際は大学院の授業中にもかかわらず（実際は2時間連続授業の中休みに）結婚報告をして，受講生に小生を紹介してくださりました。

電車好きから地理を学び始め，縁あって関西大学，末尾至行ゼミで卒論を書けたことを誇りに思います。最後になりましたが，末尾至行先生のご冥福をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

（1987年3月卒業）

「海の京都」丹後半島伊根地理実習での集合写真
（**1985年11月**）

物持ちのよさゆえに

三木　理史

とにかく物持ちのよい先生でした。通夜の席で初めて実物を拝見した加古川中流域農村工業に関する卒業論文は，表紙に地形図を配した見事な装幀で，故人となられた恩師のすべてを物語っていました。そして私の手元には1984年7月の運輸省大臣官房文書課長宛の「永久保存文書閲覧複写許可願」という一通の書面を残して。

その書面は，それから20年後に刊行した拙著『近・現代交通史調査ハンドブック』（古今書院）を先生にお届けした返礼として戻ってきたものです。正本は上記の年月に運輸省（当時）に提出したため当然残っておらず，その副本を先生は20年余保管されていたことになります。私が運輸省へ資料閲覧に行きたいと当時の東西学術研究所（現岩崎記念館）所長室に先生をお訪ねしたのはその年の初夏で，意を汲んで頂き，原文を先生がおそらく作成され，それを秘書の方が日本語タイプで打ってくれたといわれたように記憶しています。

夏休み早々に訪ねた運輸省も，いまは国土交通省に改変され，その執務室の片隅で閲覧した簿冊も現在は国立公文書館へ移管され，難なく閲覧，さらにはカメラで撮影できるようにもなりました。しかし，公文書管理法はおろか，公文書館法さえなかった39年前に，一学部生が政府の公文書を閲覧するには，信じられない煩雑な手続きが必要でした。それを叶えて頂いたのが先生との出会いであり，帰宅した日には自宅にお電話まで頂戴しました。

本格的にご指導頂いたのは大学院進学後で，英語文献の講読や古文書の解読に悩まされつつ，先生自慢の自作地図を拝見しながら度々講話を頂きました。トレーシングペーパーの劣化した古い自作地図を前に，双頭回転烏口なる耳慣れない製図用具を交え熱く語られていたのが思い出されます。冥界に旅立たれたいま，よもや当時の答案や成績表を残してゆかれていないかだけが気がかりです。

（1988年3月卒業，1991年3月院D中退，1998年3月論文博士）

今頃気づいたこと

矢嶋　巌

この歳になって，地域の歴史的脈絡を知ることが面白く感じられるようになった。若い頃は，地域の現在にばかり関心がいき，高度経済成長期より前に遡ることさえもやや億劫に感じられていた。まさに今頃気づいた次第である。

学生の頃，末尾先生の歴史地理的な授業は私にはやや辛かった。大学院もオーバードクターになってから，おそらく梅田のビア・ガーデンかどこかで，歴史地理のどういった点にご興味をお持ちなのか，大胆にも末尾先生に伺ったことを思い出す。しかし，不出来な私が，お話しの深いところを十分に理解できていたとは思えない。

その反省を込めて記す。勤務先や非常勤出講している関西大学での講義で，北大阪電鉄と千里山住宅地や関西大学の大学昇格，琵琶湖疏水と京都について，取りあげることがある。末尾先生はなんて仰るだろう。「君，今頃気づいた？」真顔で仰るだろうか，目を細めて仰るだろうか。

（1991年3月卒業，1995年3月院M修了，2000年3月院D単位取得退学，2009年3月論文博士）

時の流れ

水谷　彰伸

末尾先生の授業を最初に受けたのは3年次の地理学文献講読で，振り返ると最早30年前の事。しかし勉強不足のために往時は「読まされた」トルコの水車に関する英語文献が自身の興味と如何に繋がるかを考え及ばず，卒業論文を基盤とする「農村工業立地論」（『人文地理』4巻4号）を拝読し関心が極めて近接していた事に気づいたのは卒論作成に向けて動き始めた4年次であった。そうした非礼は何時ぞやの地理学教室の芦屋日帰巡検で病欠した院生の代わりに六甲山系河川と水車の説明役が急遽回ってきた際に工業化と水車の存在の関係性そして先生の業績について述べ，関心を抱いた学生数名から質問を受けた事で償ったと勝手に思っている。

その卒業論文を示しつつ当時の思い出話をされるのが講義の定番と某先輩から聞いていたもののその機会には恵まれず，当方が実物を初めて拝見したのがお通夜の日であった。若かりし日のひた向きな姿勢とほとばしる知的関心が其処此処に感じ取れるその文章に触れ，当然承知していた筈の先生の偉大さと共に，お亡くなりになったという事実からは時の流れを再認識させられた。お目にかかった頃の先生の年齢にはまだ届かぬものの，そうした若者と関わる立場にある自身の足許をしっかり見つめ直せとのご教示を新たに賜った思いである。

しかし卒業論文に触れる機会を得て，遂に漸く，学生時代に散々言われたあの言葉をお返しする時が巡ってきたのだった。「君，字が間違ってるよ」。

師に改めて感謝します。有難うございました。

（1994年3月卒業，1997年3月院M終了，2003年3月院D単位取得退学）

ほんの4，5日のこと

吉田　雄介

この文章…書いてはいるのですが，告別式から一週間たっておらず，正直まだ末尾先生が亡くなられた実感はありません。

ちょうど私が博士課程で3年を終えたところで末尾先生は関西大学を退職なさったので，私は関大での最後の学生になります。

末尾先生が緊急入院され，三好・夛田両先輩が病院にお見舞いに行かれたという話は春先に知り合いから耳にしていました。連絡を取りそびれていたところ，6月14日に末尾先生の体調がたいへん厳しいと先生の姪御様から連絡を頂きました。同時に，ちょうど病院から久寿川のグランダに戻ったということもお聞きしたので，翌日の15日（木曜）に末尾先生のお見舞いに参りました。コロナ禍の間，ずっとお目にかかることができなかったので，本当に久しぶりに久寿川を訪れました。私は面白みのある人間ではないので，コロナ以前も一人で先生にお目にかかることは少なく，たいていは誰かと一緒に久寿川を訪問していました。なので今回も水田君と2人でお邪魔させてもらいました。

先生は食事や水を取ることが困難になり，酸素吸入のマスクをされていましたが，案外顔色は良かったので安心しました。熱があるとのことでしたが，それほど苦しそうにも見えませんでした。「また来ます」とお見舞いを済ませて，今津駅まで歩きながら，来週月曜の非常勤の前にでもまたお見舞いに来ようと気楽に考えていました。実際，帰ってから知人数名に末尾先生のお見舞いに行ってくださいとメールを送ったくらいなので。

それがお見舞いの翌日に，先生の逝去の報に接し，言葉を失いました。なので，まだ先生がこの世を去った実感がありません。

（2000年3月院D単位修得退学，2006年3月課程博士）

――同窓会通信――

■ □ 卒業生だより □ ■

ベトナム経済発展の現実
―ビンズオン省・バリア＝ヴンタウ省の生活インフラを訪れて―

桐山　哲久

私は広島県呉市で高校時代までを過ごしたのち，関西大学文学部地理学・地域環境学専修にて文化地理学を学びました。卒業後は都内にて機械メーカーの営業職に従事し，2022年10月からは転職して尼崎に本社を置く機械メーカーにて営業職として勤務しています。

現在勤めている企業では社会基盤施設の建設を主な事業としており，生活インフラとされる発電プラントやごみ処理場，下水処理場などの建設や機器・部品の製造をおこなっています。私の担当は海外営業として東南アジアを中心とした地域でのごみ処理場の建設および機器・部品の販売に向けて営業活動に従事しており，主にベトナムのごみ集積所やごみ処理場・下水処理場などを訪問しています。

私が訪れるのはホーチミン市内から車で1.5時間ほどの距離にあるビンズオン省およびホーチミンから南へ2時間ほどの場所にあるバリア＝ヴンタウ省です。ベトナム南部の国際空港であるタンソンニャット空港周辺やベトナム最大の都市であるホーチミンの市街地は観光客や近くの省からの通勤者が集まっており栄えていますが，空港周辺やホーチミン市街地を抜けるとすぐにメコンデルタによって形成された湿地帯が広がり，湿地帯・メコン川を中心に形成された現地の人々の暮らしを感じることができます。ビンズオン省やバリア＝ヴンタウ省も例外ではなく，目的地に向かう道程では高速道路上にもかかわらず多くの人々が露店を経営・生活している様子や，子供をバイクで学校まで送迎する様子などを見ることがありました。一方でビンズオン省やバリア＝ヴンタウ省はホーチミン市街地と距離が近く，物や人の移動・確保が容易である点から外資系企業の工場移設や支店開設の誘致を積極的におこなっております。それに伴い省内に複数の工業団地が形成され，現地の人々だけでなく海外からの転勤者も増加しており，中国や日本の文化が取り入れられている光景も目にすることができます。

図1　夜のトゥーザウモット市街地

ビンズオン省では工業団地にて紙ごみの燃焼処理施設の視察をおこないます。ベトナム国内では下水設備が発展しておらず，トイレットペーパーを流すことができない為，紙ごみが増える傾向にあります。また現地ではごみ分別の文化も根付いておらず，様々な種類のごみから紙ごみのみを選別するなどの作業も必要となります。このように日本とベトナムではごみ処理に対しての意識の違いが顕著となっています。ごみ処理は行政ではなく民間企業がおこなうため，利益を追求した結果，衛生面を度外視したごみ処理環境となっており，事業者に対してごみの分別の必要性・衛生管理の重要性を唱えると同時にこれらの解決策を提示することで生活水準を高めることが現在の私の業務です。

バリア＝ヴンタウ省においては工業団地でのワークショップに参加後，ごみ収集業者や下水処理施設の視察をおこないました。下水処理場・ごみ収集業者に関しても民間企業が運営をおこなっているため，地域ごとにごみ収集や処理に差が生じます。またベトナム南部は一年を通じて平均20℃以上となる高温多湿の地域であるため，菌が繁殖しやすく，残されたごみや処理が遅れると汚水・下水の臭いは強くなります。また雨季にはスコールなどが降り，残されたごみや汚水・下水が逆流することもあるため，菌が拡散し地元の人々に影響を与える可能性あります。

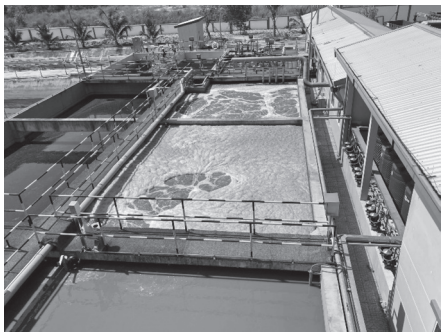

図2　バリア＝ヴンタウ省での下水処理施設視察時

ベトナムは現在急速に発展している一方，ごみ処理・下水処理などの生活インフラは整備が遅れていることが現状です。さらに，この状況は大都市や各中核都市から離れるとより顕著に現れます。

このように観光や経済発展など煌びやかな点だけでなく，人々の普段の生活を見ることでその国の課題・改善策を検討する視点や思考は，地理学・地域環境学専修にて諸先生方から多角的な視点にて物事を観察する必要があることを学び，実地調査や聞き取り調査にて実際に経験することで身につけることができました。今後も地理学・地域環境学専修にて学んだ経験を生かしながら，より多くの国を回り，世界中の人へ安全な生活インフラを届ける一助を担うことができればと考えます。

（きりやま　あきひさ：2019年3月卒業）

研究ノート

モンゴル・ウランバートルにおける急激な都市化とゲル地区への水供給の問題点

ガルサンドルジ　プルブドルジ

1. はじめに

本研究の目的は，ウランバートルの郊外地域に拡大しているゲル地区での生活問題，特に水供給問題を明らかにすることである。モンゴルにおける都市の発展段階を踏まえた上で，都市の重要なインフラである水供給に関して，ウランバートルの現状と課題について分析・考察を行った。この小稿は 2023 年 1 月に提出した修士論文のエッセンスをとりまとめたものである。

2. モンゴルの都市化とウランバートルの人口集中

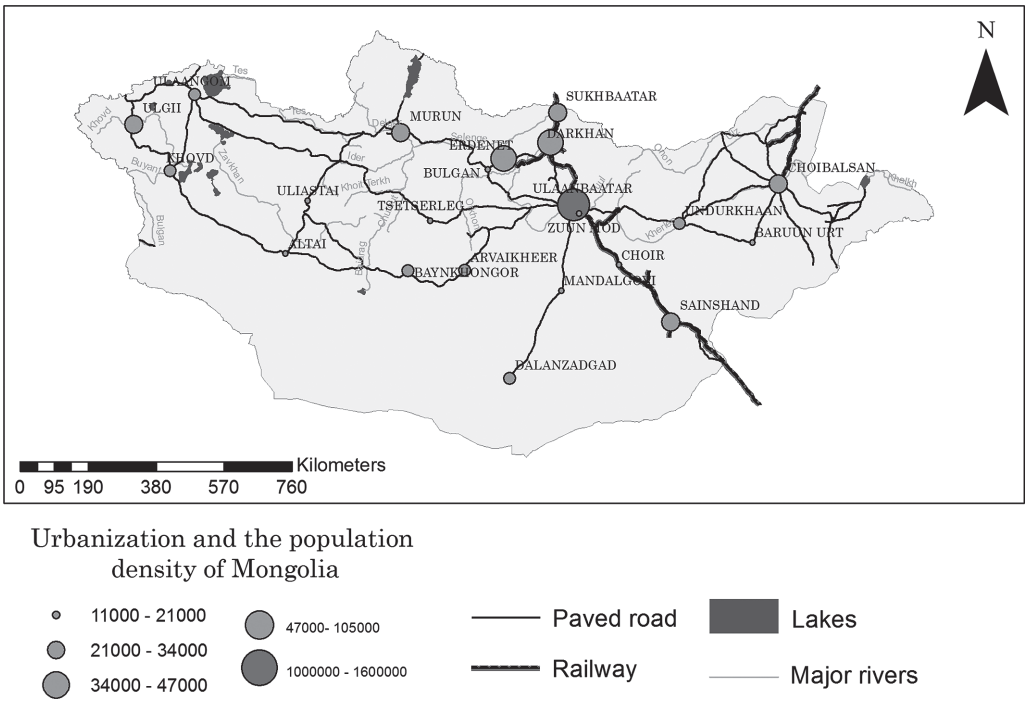

図 1　モンゴルの都市に住んでいる人口数
（モンゴル国の統計情報機関の 2021 年データ ARCGIS10.5 より作成）

図 1 は，モンゴルにおける都市の分布を示したものである。現在では，都市間が道路で結ばれた状況となっている。モンゴルの都市のほとんどが，河川の流域に立地している。国土の北部と中央部に河川が流れているため，都市分布は中部と北部に見られる。モンゴルにおいて都市の発展を導いているのは，主に通信，交通，天然資源であると考えられる。鉱産資源の採掘地に都市が生まれ，そうした都市が道路でむすばれている状況である。そして，水資源の有無などが都市の存立条件となるとともに，豊かな自然が都市を育む条件となっている。例えば，西部のウルギイ市（ULGII）は，カザフ民族が多い地域で，加えて美しい自然景観が魅力となっており，重要な観光地となった。

3. ウランバートルにおける都市計画

ウランバートルの居住地は，アパート地区とゲル地区とに二分される。アパート地区に含まれるのは，アパート（集合住宅）と戸建住宅であるが，戸建住宅に居住する世帯はわずかである。ゲル地区に分類されるのはゲル（移動式住宅）もしくはバイシン（固定式住宅）で，名前は「ゲル地区」でも実際にはバイシンを住宅としている人が多い。2000 年以降の様子を見ると，15 年間でアパート地区居住世帯は約 2 倍に，ゲル地区居住世帯は約 2.6 倍に増加しており，2015 年時点でウランバートル市民の約 6 割がゲル地区に居住する。ウランバートルにおける本格的な都市建設は，第二次世界大戦後，ソビエト社会主義共和国連邦（以下，ソ連）の援助を受けながら開始された。ウランバートルの都市計画マスタープラ

ンは，社会主義時代にソ連の都市建設中央設計研究所（ГИПРОГОР）によって4回（1954年，1961年，1976年，1986年で），体制移行後にはモンゴル人の手によって1回策定され，移行後につくられた第5次都市計画マスタープラン（2002年）はその後改訂されている。

4. モンゴルの水資源と水循環

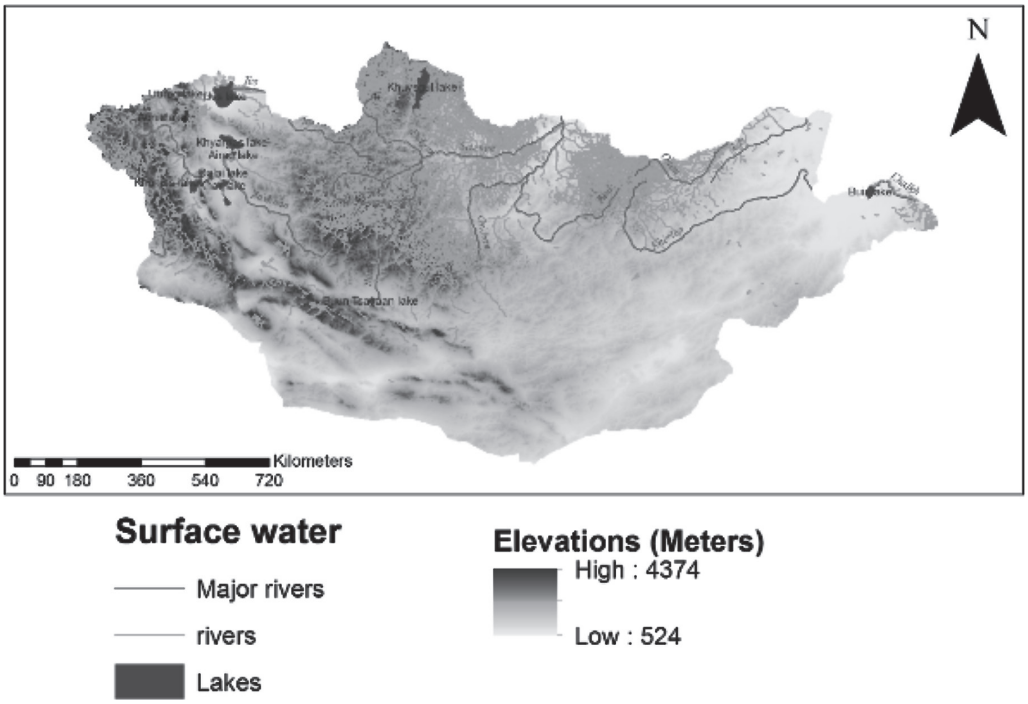

図2　モンゴルの地表水
（モンゴル統合地理データ2015年・ARCGIS10.5より作成）

国内の水資源の主たるものは，河川，湖沼，地下水である。特に，モンゴル国の水資源の約84％が湖沼に存在している。これらの湖沼は北西部の山間部に多い。湖面の面積が5km^{2}以上の湖沼は全体の5％弱で，面積0.1km^{2}以上の湖沼は3,500以上あり，小さな湖が多くなっている。降水として降った雨の大半は，その70～90％が蒸発してしまい，残りが河川水と地下水を涵養している。モンゴル国の水は主に湖沼に集中しており，湖沼水資源国とも称されている。モンゴル国における1ヶ年間の水資源量は湖水が約500km^3，氷河が約62.9km^{3}であり，地表水が約34.6km^{3}で地下水は10.8km^{3}と推定されている。このうち，実際に利用可能な水は地表水の34.6km^{3}で，その中で63.5％が地表で，残りが地下水源36.5％となっている。

表1　モンゴル水資源（km^3）

モンゴルの総水資源	564.8 km^3	100％
川	34.6 km^3	5.6％
湖	500 km^3	82％
氷河	62.9 km^3	10.4％
地下水	10.8 km^3	2％

（2020年のウランバートル市資料より作成）

5. ウランバートル市の水供給システム

ウランバートルの水供給のうち，約30％が中央水給水システム，約25％が給水車，約36％が井戸，残りの数％が小河川と融水融氷となっている。ウランバートルの居住地域は，計画的に整備されたアパート地区と，その周辺を取り囲むように東と西方向に分布するゲル地区に大別される。アパート地区には電気，上下水道，セントラルヒーティングが完備されている。一方，ゲル地区では，大半の地域で上水道が設備されず，キオセグという水販売施設から住民が生活用水や飲料水の購入している。ゲル地区の住民は，アパート地区の住民に比べて，取水量が少ないにとどまらず，全般的に生活水準が低くなっている。例えば，一般にゲル地区の住民には，自宅にシャワーがないので，シャワー店に行かなければならない。ウランバートル市ではゲル地区での急激な人口増加によって，水供給の現状が悪化している。なお，ゲル地区内でも遠方になるとキオセグの密度が低くなるとともに，キオセグへの配水車の配達基盤が薄くなっている。このように，アパート地区とゲル地区との格差だけでなく，ゲル地区内での距離格差も深刻となっている。なおウランバートル市では水供給の約91％が地下水から調達されている。このまま地下水を使用し続けていると，20年後には飲料水が不足すると指摘されている。

（GALSANDORJ Purevdorj：博士課程前期課程2023年3月修了）

新専修生からのひとこと

浅野まゆ
歩くのが好きで地理学・地域環境学専修を選びました。体を動かすのが好きです。よろしくお願いします。

東　祐輝
兵庫県神戸市在住です。城巡り，鉄道旅行，観光，写真が好きです！地理学の視点から幅広く日本のことや歴史などを学びたいと思い，地理学専修を選びました。よろしくお願いします！

磯　翼
課外活動が多く色々楽しみながら学ぶことができそうだと感じたため地理学専修に希望しました。関連行事に参加しながら知見を深めていけたらなと思います。

上野桜祐
はじめまして。僕は，旅行が好きで観光や地域文化について興味を持ったのでこの専修を選びました。知らないことも多いですが，これから地理学専修で多くのことを学んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。

梅田恭平
こんにちは。幼い頃より旅行が好きで地理学に興味があり，専修に入ろうと思いました。自然地理学に興味があります。この専修で多くのことを学びたいと思います。よろしくお願いいたします。

奥田文香
私は，地理学視点を利用して地元である，奈良県の過疎地域の歴史や自然をもっと知りたいと思い，この専修を選びました。よろしくお願いします。

海原紬希
初めまして。私は奈良県に住んでいます。観光や旅行に興味があり，この専修を選択しました。フィールドワークが楽しみです。よろしくお願いします。

加藤由衣
兵庫県に住んでいます。国内や国外を旅行しているうちに，観光業やその地域の食文化に興味を持ったため，地理学専修を選びました。これからよろしくお願いします。

■ □ 一泊バス巡検報告 □ ■

淡路島の自然と人文

山本　奈穂

2023 年 5 月 13 日から 14 日にかけて「淡路島の自然と人文」をテーマとした 1 泊 2 日のバス巡検が実施された。当日まで雨が心配されていたが，午前中は曇りながらも雨は降ることなく，我々は新大阪駅に集合した。

学部生，院生そして先生方を含めて総勢 58 名が乗合バスと野間先生の車に分乗し，阪神高速道路から明石海峡大橋を渡って最初の目的地である「道の駅あわじ」に向かった。目的地までは 1 時間ほどを要したが，向かう車内では 3 回生が事前学習を基に作成した資料の発表や，先生方による解説が行われた。

「道の駅あわじ」に到着して集合写真を撮影すると，10 分ほどの自由時間が与えられた。自由時間は各々が，販売されていた食べ物を食べたり，淡路島の特産品である玉ねぎを使用したお土産を買ったりしていた。「道の駅あわじ」では，淡路島の特産品をたくさんの人に楽しんでもらいたいという思いから，オンラインショッピングにも対応しているため，興味を持った方はぜひサイトを訪れてみてほしい。

道の駅あわじで休憩を済ませた我々は，再びバスに乗車して「野島断層保存館」へ向かった。野島断層保存館はその名の通り，阪神淡路大震災で活動が確認された野島断層を実物で保存し，展示している博物館である。到着してすぐに昼食を摂り，残った自由時間で野島断層保存館を見学した。保存館には私が訪れたときは残念ながら休止中であったが，実際に阪神淡路大震災の震度を体験することができる施設，各地から届いた千羽鶴，断層のそばにあったが倒壊しなかった家，そして震災当時の写真などが展示されていた。また，屋外に展示されていた「神戸の壁」は昭和 2 年頃に建てられた延焼防止壁であり，阪神淡路大震災では周囲の建物が倒壊・全焼する中，この壁だけは倒れず，焼けることもなかったという。壁に付いた傷や，表面がはがれむき出しになった鉄骨は，当時の火災のすさまじさを伝えていた。阪神淡路大震災は教科書で学習するような歴史の出来事という感覚が強かったが，今回の学習を通して，地震のすさまじさを知るとともに，防災の大切さを学習することができた。

保存館の見学を終え，次に我々は伊弉諾（いざなぎ）神宮へ向かった。伊弉諾神宮は淡路国一宮で，古くからの格式ある神社である。伊弉諾神宮では各々がおみくじを引いたり，樹齢 900 年を超える大きなクスノキを鑑賞したり，お土産を購入したりと自由に過ごした。

伊弉諾神宮の見学を終えると，我々は高田屋顕彰館・歴史文化資料館へ向かった。これは，高田屋嘉兵衛についての展示を主とする博物館である。高田屋嘉兵衛は淡路島に生まれ，蝦夷地の開発や航路の開拓，ロシア船に拿捕された故から日露関係の交渉にも尽力した人物である。博物館では高田屋嘉兵衛の生涯についての

「道の駅あわじ」での集合写真（2023 年 5 月 13 日）

ビデオを鑑賞した後，当時の船の模型や，ロシアと日本が取り交わした文書，また，蝦夷地開拓の縁からアイヌ文化に関する展示などを見て過ごした。

博物館の見学を終えると，雨が本格的に振り出してきた。雨に降られながらバスに乗り込み，次に向かったのは「道の駅うずしお」である。ここはうずしおに一番近い道の駅である。現在はリニューアル工事中のため，この道の駅からうずしおを見ることはできないが，淡路島食材を使用したあわじ島バーガーを初めとした創作バーガーや，淡路島の特産品である玉ねぎや牛乳を使用したオリジナル商品を買って楽しんだ。

道の駅を後にして，次に向かったのは「美菜恋来屋」という産直市場である。ここでは野菜や鮮魚，加工品やスイーツなど淡路島の特産品を幅広く販売している。また，フードコートも併設されており，淡路島牛乳を使用したソフトクリームなど淡路島の食材を楽しむことができる。オンラインショッピングにも対応しているため，興味を持った方は利用してみてほしい。

雨脚が強まる中，美菜恋来屋を出発して，対岸の明石市内のホテルに向かった。道中では道の駅や美菜恋来屋で購入したスイーツやホットスナックを食べながら，3回生が淡路島の交通などについて発表を行った。こうして，バス巡検1日目は終了した。

バス巡検2日目。1日目よりも雨は弱くなったが降り続けていた。ホテルを出ると，まず明石駅から程近くにある明石城を見学した。明石城は1619年に徳川秀忠の命により築城された。熊本城の天守とほぼ同規模の天守台をもち，日本城郭協会によって「日本100名城」にも選定されている。天守台からは明石の街並みが一望でき，その景色に感嘆するとともに，駅の線路が見えるほどの距離に城があることに驚いた。

明石城を出ると，明石城下町を歩きながら最後の目的地である魚の棚商店街に向かった。魚の棚商店街は明石城の築城ともに誕生したと伝えられる歴史ある商店街である，商店街ではそれぞれ自由に行動し，明石焼きやイイダコを1匹丸ごと使用した巨大せんべいなど，明石の海鮮を楽しんだ。

今回のバス巡検はあいにくの天気となったが，淡路島について理解を深める良い経験となった。中でも，野島断層保存館では阪神淡路大震災の記録を学習し，防災の大切さや，災害の危険性について今一度認識する機会となった。また，道の駅や産直市場，商店街を訪れて，淡路島の玉ねぎや牛乳をはじめとした多くの特産品を知り，それらが作られる豊かな自然環境や歴史的な経緯についても学びたいと思わせられた。

（やまもと　なお：本学3回生）

秋の日帰り巡検の案内

関大地理同窓会（旧・関西大学地理学研究会）の恒例行事ともなっている教室の日帰り巡検を，2回生，M1の大学院生の案内を中心にして，以下の要領で実施します。今回の巡検は，岸和田と貝塚を対象に，泉州中核部の自然，産業，歴史景観を観察します。JR阪和線・南海本線等を利用してまわります。昼食は，南海岸和田駅付近で各自とります。JR久米田駅は普通・区間快速のみ停車です。貝塚が地元の岡田良平氏（畿央大学）にもご案内いただきます。

参加希望される方は，9月30日（土）までに氏名，メールアドレス，携帯電話番号を野間（noma@kansai-u.ac.jp）までお知らせ下さい。また直前のキャンセルなども野間の携帯（090-2381-9752）までお知らせ下さい。

テーマ：岸和田と貝塚―泉州中核部の自然，産業，歴史景観―
日　程：2023年10月1日（日）10時～18時頃　　2回生，M1ら31名が案内
集　合：JR阪和線・久米田駅　10時　雨天決行
コース：JR久米田駅（10時）～久米田池～JR久米田駅～JR東岸和田駅～南海岸和田駅～岸和田市内で昼食～だんじり会館，岸和田城～南海本線・蛸地蔵駅～南海本線・貝塚駅～貝塚市歴史展示館～近義の里駅（水間鉄道）～貝塚駅（水間鉄道）～貝塚寺内町～二色浜公園～南海貝塚駅（解散：18時頃）
費　用：電車賃（久米田～東岸和田，蛸地蔵～貝塚，近義の里～貝塚），昼食代
教員責任者：野間晴雄（携帯電話090-2381-9752），土屋　純（携帯電話090-5864-5738）

亀井珠菜
高校で発掘調査や地元の開発史について学んだことをきっかけに地理に興味を持ちました。今は世界の開発史や防災に興味があります。よろしくお願いします！

木下康太
地理が好きな教科だったことに加え，旅行が趣味なので地理学専修を選択しました。これまで学んだ地理ではあまり実地での学習がなかったので，フィールドワークをとても楽しみにしています。

毛戸翔大
一人で色々な景色を見ることや観光地での美味しい物を食べるのがとても好きです！地理を勉強して景色だけを楽しむだけじゃなく別の観点でも楽しめたらなと思っています。よろしくお願いします。

後藤祥次郎
吹田市に住んでいます。鉄道から観光や地理に興味を持ち，地理学を選びました。様々なことを学んでいきたいです。よろしくお願いします。

後藤　爽
はじめまして。旅行が好きで好きな理由を自分なりに解き明かしていきたいと考え，この専修を選びました。よろしくお願いします。

品川　蒼
これから3年間よろしくお願いします。仲良くしていただけたら嬉しいです。

杉本珠美
地図と地形に興味があり，散歩やサイクリングが好きなので地理学専修を選びました。よく迷子になります。これからよろしくお願いします。

須田明日香
初めまして！観光と防災に興味があってこの専修に入りました！よさこいをしており遠征もよくあるため，旅行がとても大好きです！よろしくお願いします！

巽　愛華
初めまして。私は，旅行が好きで，地理学地域環境学専修を選びました。アウトドア好きなので，3回生の実習調査旅行が楽しみです。よろしくお願いします。

田中悠介
信仰や行事，地名など様々な文化要素の地域差に興味があり，この

専修を選びました。災害や気候などの自然地理にも興味があります。よろしくお願いします

田村昌工
こんにちは！私は旅行や地図が好きで地理学専修を選びました！皆さんと楽しみながらたくさんの事を学びたいです！よろしくお願いします！

丹　悠真
初めまして！より深く日本や世界の地理について学びたいなと思い，この専修に入りました。いつか47都道府県全て旅行してみたいです。よろしくお願いします。

土屋晶希
こんにちは。私は自然や生き物が好きで，文系の自分でもそれらに関わることができる学問は何かと考えた時，地理学が最も適しているなと思い地理学専修を選択しました。これからよろしくお願いします。

中川詩織
こんにちは。知パスや学びの扉で地理学に興味を持って，この専修を選びました。散歩が好きなのでフィールドワークにも惹かれました。女子サッカーやっています。お笑いやラジオが好きです。よろしくお願いします。

中所こまち
大学に入学し，様々な授業を受けるにつれて地理学に興味を持ち選びました。旅行が好きなのでフィールドワークが楽しみです！これからよろしくお願いします。

鋼倉夕葵
初めまして，旅行に行くことが好きで地理学専修に希望しました。専門的なことを学べるので楽しみです！これからよろしくお願いします。

林　大耀
私は地理が出来るというよりは，地理をもっと深く学んでみたいと言う気持ちでこの専修に入りました。なので皆さんについていけるように頑張ります。

福田穂香
フィールドワークに惹かれて地理学専修に入りました。旅行と，写真を撮るのが好きです。よろしくお願いします。

古市美咲希
高校時代から地理に興味があり，旅行や散歩

第５回千里地理学会

日時：2023 年 12 月 9 日（土）14 時 30 分～ 17 時　総会・懇親会 17 時～ 20 時
場所：関西大学千里山キャンパス第 1 学舎 5 号館（E 棟）E602

千里地理学会 14 時 30 分～ 17 時
1）大学院博士課程前期課程院生：熊本実習調査中間報告
2）田中清隆（本学非常勤講師）：巡検で学ぶ中・南河内の地域文化―景観の復元を利用して
3）徐　雨辰（本学博士課程後期課程）：17 世紀におけるジャワ島の伝統的製糖業の展開―オランダ東インド会社と中国移民
4）野間晴雄（本学特別契約教授）：出逢いの地理学―私の師匠・同僚・学際交流，そして学生
★懇親会を 4 年ぶりに学内施設で再開いたします。詳細は専修のウェブサイトで連絡します。ふるってご参加ください。懇親会参加の方は 12 月 2 日までに専修アドレスに申し込み下さい。

卒業論文及び修士論文一覧（2023 年 3 月卒業・修了）

[2023 年 3 月卒業論文]

佐藤綜一郎　東京大都市圏における郊外核の比較研究　―横浜，幕張，大宮の比較―
田仲　息吹　民謡から見る日本の地域性と情景の構築　―地域に根付いた民謡の形成過程をもとに―
浅野　祐斗　北海道新幹線札幌延伸による課題と観光への期待
新井　ひな　スポーツチームの地域活動による地域活性化
　―独立リーグ徳島インディゴソックスを事例に―
石山　　翼　鉄道空白地帯におけるコミュニティバスの役割　―兵庫県猪名川町を事例に―
宇都宮　陸　岸和田市における中心商店街の衰退とその要因　―岸和田駅商店街を事例に―
岡田　ゆり　八尾市の地域野菜におけるブランド化の地理的な特徴　―八尾若ごぼうを事例に―
四木　愛実　茨木市の地名のエコロジー　―低地・台地・山地の小字の規模と分布を中心に―
嶋田　航大　佐渡島における離島交通体系についての具体的検討
　―機能分析と速達需要の視点に着目して―
高田凜太郎　ウォーターフロント開発が都市に及ぼす影響　―神戸の都心と郊外に着目して―
谷口　　歩　和歌山県岩出市における人口増加の特徴と要因
田村　莉菜　旧河道における土地利用の変遷と防災　―安威川下流域を事例に―
仲原　太亮　奈良市でかき氷が流行した要因と店に与えた影響
西村　莉乃　泉北ニュータウン地域における買い物弱者問題に関する研究
福田　彩伽　郷土愛の醸成と就労意識の変化　―学校教育及び地域活動の実態と課題―
藤井　　純　妖怪「鵺」退治譚からみる中世貴族社会の安全圏
松川　立樹　JR 南草津駅周辺地区の発展と展望　―土地利用変化調査に基づいて―
宮村　多門　日本における産業遺産の特色及び保存活用の方向性と展望
村上　大成　和歌山県上富田町における人口増加の要因
村上　千紘　和歌山城下町の歴史災害　―江戸時代の水害を事例に―
村田　秀人　錦市場と黒門市場におけるインバウンドおよび新型コロナウイルスによる変化
米元　佳那　ウドの民俗植物学と三田うどの生産
　―地域における野生・栽培・調理加工の技術複合―
米本　千夏　滋賀県における伝統的カブ類の生産・流通，種の保存と継承

[2023 年 3 月修士論文]

ガルサンドルジ　プルブドルジ
　モンゴル・ウランバートルにおける急激な都市化とゲル地区への水供給の問題点
閻　　伊梦　日本におけるスキー場の開発史と持続可能性
　―関西地方の高原リゾートの変容に注目して―
高田　協平　段丘・丘陵の盛土地における液状化の土地条件　―地形・地質・法令に着目して―

〈同窓会事務局ニュース〉

・2023年12月9日（土）17時より2023年度千里地理学会大会と同窓会総会を開催いたします。

・2014年の卒業生に対して，事務局から郵送による消息調査をおこなっています。該当する卒業生の方にはメールまたは往復はがきを送付しておりますので，ご協力よろしくお願い申し上げます。

・同窓会通信の執筆を募集しております。1ページ1600字程度，半ページ800字程度です。執筆いただける方は教室メールアドレス［kandaichiri@gmail.com］までご連絡ください。また，会費の納入状況などのお問い合わせも上記メールアドレスにお願いいたします。

野間晴雄先生退職記念講演・パーティー

87，88号でお知らせいたしましたように，野間晴雄先生退職記念講演・パーティーを開催いたします。当日は，関西大学関係者だけでなく，野間先生がご勤務された奈良大学・滋賀大学・奈良女子大学関係者のみなさまにもご参加いただける予定です。

日時：2024年3月2日（土）13時～18時
場所：大阪ガーデンパレス
（大阪市淀川区西宮原1-3-35，新大阪駅より送迎バスまたは徒歩約15分）
記念講演：13時～14時30分 「エコトーンの迷い人―45年の教育と研究をふり返って」
記念パーティー：15時30分～18時
パーティー会費：1万5千円（皆様から寄稿いただいた『退職記念エッセイ集』を配布）
参加申し込みURL：https://forms.gle/muwRvw3BHRZ4Bewc7
記載のQRコードからも申し込み可能です。
＊一口2,000円から拠金もお願いしております。賛同いただける方はよろしくお願い申し上げます。
＊エッセイ集の寄稿のご案内は関大地理ウェブサイトに掲載されています。

参加費払込口座
振替口座：00960-0-196189（関西大学退職記念事業会）
他の金融機関からの振込店名：〇九九店　預金種目：当座　口座番号：0196189
締め切り：2023年12月末

教室だより

■令和5（2023）年度の地理学・地域環境学専修に分属された2回生は32名でした。大学院博士課程前期課程には3名（内部進学者1名，外部入学者1名，留学生1名）が入学しました。9月末現在，2回生は32名，3回生は22名，4回生は18名，博士課程前期課程7名，博士課程後期課程2名の計81名となります。

■恒例の5月の「地理学・地域環境学実習」のバスによる1泊巡検は，5月13～14日に淡路島・明石方面に一泊二日で実施しました。

■本大学院で博士を取得された，ベトナム国家大学ハノイ校・理科大学地理学部専任講師のグエン・ティ・ハータインさんが6月1日から8月29日までの3ヶ月間，関西大学東西学術研究所客員研究員として滞在されました。7月4日には学生向けの特別講演会「ベトナム島嶼ツーリズムの可能性と課題」が開催されました。

■大学院合同演習は，昨年と同様に関西大学梅田キャンパスで7月15日（土）に実施しました。于 凡茜，浅野祐斗，田原和真，潘 多，張銘珊，楊 珺屹，張 然，劉 天星，徐 雨辰の9名の発表がありました。そしてグエン・ティ・ハータインさんによる特別発表がありました。

が好きで地理学専修を選びました。これから地理学についての知識をより一層深めたいと思っています。よろしくお願いします。

三好彩香
こんにちは。地理学には，観光や旅行に興味があって選びました。今のところフィールドワークがとても楽しみです。よろしくお願いします。

村井佑希哉
高校で地理Bの成績が良かったので，地理学専修を選択しました。インドアなのでフィールドワークにあまり気が乗りませんがよろしくお願いします。

村上洸基
広島出身で海と共に育ちました。海が好きです。メンタルマップを埋めていく感覚が好きでよく知らない路地をうろついています。怪しい者ではないです。よろしくお願いします。

吉田太陽
高校で地理を学んだ時から大学で専門的に勉強したいと考えていました。よろしくお願いします。

渡邊太陽
インドネシアやシンガポールに住んでいたこともあり，様々な土地を訪れるうちに地理学に興味を持ちました。

〈大学院生〉

浅野祐斗
2019年4月に関西大学へ入学してから，4年も時が過ぎていました。気が付いたら，そのまま大学院に進学していました。研究や仕事で忙しい毎日ですが，たまには旅に出たいと考えています。よろしくお願いします。

田原和真
初めまして。この春に奈良大学から関西大学の大学院に進学してまいりました。大学院では，経済地理学を研究したいと考えています。至らない点も多いかと思いますが，ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

于 凡茜
初めまして。中国遼寧省の出身です。日本のACGN文化に興味があり，アニメ聖地巡礼に関する研究を行っています。土屋ゼミに所属しています。これからどうぞよろしくお願いします。

随想 藪内先生への想いとともに歩んだ我が地理学人生

田和　正孝

この春，「千里地理通信」の随想欄への執筆をご依頼いただいた。すぐさま，藪内先生のことを記そうと思った。大変光栄なことであり，ぜひお引き受けしたいと返事をした。

藪内先生は，1975 年，大阪市立大学をご定年退職された後，ここ関西大学文学部に教授として着任された。自然・生態，経済，社会，文化などいずれにも精通された地理学者であり，語学にもたいへんご堪能で，多数のドイツ語，英語の翻訳書を出版されている。

当時，関西学院大学法学部に在籍し，「地理好き少年の成れの果て」のような生活を送っていた私は，地理学への想いを捨てがたく，関学大学院文学研究科に進学した。1976 年春のことである。初めての授業は，非常勤講師としてご出講された藪内先生の地理学特殊講義「インドの地誌」であった。先生は，私の稚拙さにさぞ驚かれたのであろう。系統地理学と地誌学について，諭すように教えてくださった。それが「地理学に家を建てる」ということであった。すなわち，雨もりのしない，地震にも耐えうる，完全な家を建てるのである。家は，柱，瓦，ガラス，畳，土，そのほか様々な材料からなる。経済地理学，集落地理学，政治地理学などは，それぞれ瓦，ガラスなどと同様の個別資材であり，それだけでは最終的に家は建たない。ここでいう完全な家が，先生が地域研究の最終目標であると考えられた地誌学であった。「地理学に家を建てる」という言葉は，私の座右の銘になった。これまで，機会あるごとにこの言葉を書き残してきたし，学生に地誌の大切さを教える授業では必ずこの言葉にふれた。

間もなく，私は，指導教授の影響もあって沿岸漁業に関心を持ち始めた。藪内先生の幅広いご専門のひとつに漁業地理学があった。ご著書『漁村の生態』（1958 年）はバイブルとなった。難解な構成だが，目を通すたびに発見のある不思議な本であった。藪内先生は，たいへん残念なことに，関大ご在職中の 1980 年 3 月，急にご体調を崩され，帰らぬ人となられた。先生から漁業地理学について直接ご指導いただく機会は逸した。しかし，そのお人柄，ご研究の壮大さを常に思い返した。先生がお考えになった漁業労働力の季節的配分を学びたくなり，調査された越前四箇浦に足を運んでみたりもした。

1989 年，母校の教員となり，海外調査に赴く機会ができた。偶然のように，藪内先生のフィールドと重なる喜びがあった。1990，92 年のパプアニューギニア調査では，先生が 1975 年に調査されたトレス海峡諸島のサイバイ・ボイグ両島をニューギニア本島から眺めるような位置にある村で過ごした。1991 年には，マレー半島南部の華人漁村に 2 か月ほど住んだ。半島最南部の養殖漁村ククップへも足を延ばす機会があった。そこは，先生が 1967 年，漂海民を調査すべく大阪市立大の大学院生を引き連れ長期滞在された，タンジョンペレパス村の目と鼻の先であった。村の名前を記憶していた私は，ククップの村人にタンジョンペレパス村の方角を教えてもらい，ひとしきり先生を想い合掌した。

その後，藪内先生の学風を知りたいというわがままに，跡継ぎの藪内成泰・明子ご夫妻が何度もお付き合いくださった。岸和田のご自宅にて先生のお話を伺い，たくさんの資料も拝借した。2011 年 3 月には，先生の手書きの講義ノートや覚え書きなどを見せていただき，その中から，第二次世界大戦中の 5 年間の軍務を終え，戦後まもなく長野師範学校に戻られた先生の安堵感や学問への情熱がたぎる「若き日理想を追はんとせる感激胸に蘇える」というメモを見つけた。大きな感動を覚えた。ご夫妻からは，先生が撮影されたトンガ，サモア，東南アジア，トレス海峡諸島はじめ各地の膨大なスライドを，研究に役立てるようにとのお言葉と共にお預かりもした。いまだ十分ではないが，その整理と考究を自身の最後の仕事にしたいと思う。

今，私は共通教養科目「地域社会の生活と資源」を担当している。自らの調査経験を軸にしながら地誌的な内容を学生諸君に問うている。私の話す地誌など「かりそめの苫屋」にすぎないが，藪内先生がそばにおいでになられて，「まあ，田和君に合うてますわな」と紀州弁まじりに微笑んでくださるならば，これほど嬉しいことはない。

［付記］『人文地理』第 75 巻第 1 号（2023 年 3 月刊）に，伝統的な定置漁具の記述をめぐる研究ノートを掲載いただいた。藪内先生のご業績を骨子として展開している。ご関心をお持ちくださった方には，お目通しいただければ幸いである。

（たわ　まさたか：関西学院大学名誉教授・本学非常勤講師）

千里地理通信　第 89 号
2023 年 9 月 16 日　発行　　（1000 部）
関西大学地理学・地域環境学教室
関大地理同窓会
〒564-8680　吹田市山手町3-3-35
関西大学文学部地理学・地域環境学教室内
編集担当：土屋　純・野間晴雄（追悼文）
TEL：06-6368-1121（内線 4890：大学院生室）
e-mail：kandaichiri@gmail.com
http://www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/
郵便振替：大阪 00970-4-81149